

2026年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 日本ビジネスシステムズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5036 U R L <https://www.jbs.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 牧田 幸弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 CFO (氏名) 勝田 耕平 T E L 03 (6778) 7336
 配当支払開始予定日 一
 決算補足説明資料作成の有無: 有
 決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第1四半期の連結業績 (2025年10月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年9月期第1四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第1四半期	48,687	74.4	2,313	21.6	2,350	20.6	1,936	44.6

(注) 包括利益 2026年9月期第1四半期 1,983百万円 (45.6%) 2025年9月期第1四半期 1,362百万円 (99.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年9月期第1四半期	円 銭	円 銭
2025年9月期第1四半期	42.71	40.71

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年9月期第1四半期	百万円	百万円	%
2025年9月期	87,763	27,129	30.8

(参考) 自己資本 2026年9月期第1四半期 27,011百万円 2025年9月期 27,136百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2025年9月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	
2026年9月期	—	17.00	—	23.00	40.00	
2026年9月期(予想)	—	22.00	—	23.00	45.00	

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無
 2. 2025年9月期期末配当の内訳 1株当たり23円00銭 (普通配当 18円00銭 東証プライム市場変更記念配当 5円00銭)

3. 2026年9月期の連結業績予想 (2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期 1Q	48,366,400株	2025年9月期	48,366,400株
② 期末自己株式数	2026年9月期 1Q	3,398,615株	2025年9月期	2,770,595株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期 1Q	45,346,708株	2025年9月期 1Q	45,591,982株

(注) 期末自己株式数には、株式付与ESOP信託が保有する当社株式（2026年9月期 1Q 2,200,000株、2025年9月期 2,200,000株）が含まれております。また、期中平均株式数において控除する自己株式に株式付与ESOP信託が保有する当社株式を含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、決算補足説明資料は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2025年10月1日～2025年12月31日）の国内経済は、米国の通商政策による影響が一部にみられるものの、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果により景気は緩やかな回復傾向にあります。一方で、エネルギー・原材料価格の高止まりや円安の影響による企業コストの上昇、消費者の節約志向の継続に加え、米国における通商・金利政策の不透明感、欧州・中東情勢の緊迫化など海外リスクが重なり、先行きについては不確実性の高い状況が続きました。また、急激な為替変動や物価上昇などの側面からも引き続き慎重な見極めが求められる局面となっております。

このような経済環境のもと、国内IT市場においては、幅広い業種にわたり、各企業のデジタル変革（DX）に対する投資意欲は引き続き旺盛で、生産性向上、競争力強化やコスト削減を目的としたIT投資需要が活況に推移しており、今後ますます様々な分野でクラウド技術やクラウドサービスの活用が進んでいくことが期待されています。

MicrosoftやAWSといったクラウド製品を提供するハイパースケーラー企業の世界的な事業展開、生成AIの登場により、IT市場はオンプレミス等のトラディショナルサービスから、デジタルテクノロジーサービス・ビジネスサービスへと大幅にシフトしています。国内IT市場においてもクラウド市場の成長率は全体の成長率を大きく上回り成長を持続しています。当社グループが中核としていたMicrosoftクラウド製品も、アプリケーション分野/インフラ分野においてマーケットシェアの高い製品群を有しております、IaaS市場ではAWSと並ぶトップシェアとなっています。また、お客様においては、Covid-19後のリモートワーク対応に端を発し、インフラを中心としたクラウドシフトが進んで参りました。生成AI登場後は、本格的なDX需要として情報システム領域だけでなく顧客特有のビジネスIT領域におけるクラウド活用・AI活用ニーズが増加しています。また、情報システム領域においても、サイロ化したクラウド環境の全体最適化やサイバーセキュリティ対応が求められています。

これらの需要に対し、当社グループはマイクロソフトクラウドを中心としたコミュニケーションインフラ領域に強みを持つクラウドインテグレーターとして成長して参りました。今後は、マルチクラウド・セキュリティ対応を始めとしたインフラ領域におけるモダナイゼーションに加え、お客様の中長期的な経営課題に資するビジネスIT領域・AI領域・グローバル領域における事業拡大を図り、クラウド時代におけるお客様のIT課題をワンストップで解決するクラウドインテグレーターとしてさらなる成長を目指してまいります。

このような方針のもと、ビジネスIT領域においては、基幹業務システム導入を中心としたビジネスソリューションの設計・開発・運用に特化したSureBizCloud株式会社を新たに立ち上げ、より専門性をもった顧客支援を進めております。AI領域においては、法人営業専用AIエージェントとして「Sales AIgent」をリリースしたことにより、大手PCメーカーの製品に当社オリジナルのAI学習コンテンツを標準搭載するなど、ユーザーのAI利用定着化支援に取り組んでおります。グローバル領域においては、顧客企業の海外拠点を含めた包括的な運用支援や物販の提供など、グローバルでの包括支援ニーズに対応しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は48,687百万円（前年同期比74.4%増）、営業利益は2,313百万円（同21.6%増）、経常利益は2,350百万円（同20.6%増）、固定資産の売却による特別利益の計上もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,936百万円（同44.6%増）となりました。

セグメント別の経営成績（売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を除く）は次のとおりであります。

(クラウドインテグレーション事業)

当第1四半期連結累計期間は、大手既存顧客を中心に継続的なリレーションシップにより案件を創出してきたことに加え、金融・製造をはじめとした各業界における新規案件の獲得が進んだ結果、売上高は7,408百万円（前年同期比14.4%増）、セグメント利益は1,341百万円（同16.1%増）となりました。

(クラウドサービス事業)

当第1四半期連結累計期間は、既存顧客のクラウド利活用推進に伴う案件の増加に加え、国内のみならずグローバルでの運用支援ニーズの拡大により、売上高は5,840百万円（前年同期比12.4%増）、セグメント利益は1,014百万円（同22.7%増）となりました。

(ライセンス＆プロダクト事業)

当第1四半期連結累計期間は、顧客企業の継続的なクラウド利活用によりマイクロソフトライセンスの提供が安定的に推移したことに加え、大手顧客のクラウド利活用推進における一時的大口需要及び前期から継続している公共系案件によって物販が大幅に伸長した結果、売上高は35,434百万円（前年同期比118.1%増）、セグメント利益は879百万円（同24.1%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末と比べて14,107百万円増加し、53,424百万円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が13,903百万円、現金及び預金が1,879百万円増加した一方で、その他の流動資産が2,034百万円減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末と比べて811百万円減少し、34,339百万円となりました。これは主に、有形固定資産が860百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末と比べて13,295百万円増加し、87,763百万円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末と比べて13,915百万円増加し、45,972百万円となりました。これは主に、買掛金が17,941百万円増加した一方で、短期借入金が1,800百万円減少したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末と比べて504百万円減少し、14,662百万円となりました。これは主に、長期借入金が553百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末と比べて13,411百万円増加し、60,634百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べて115百万円減少し、27,129百万円となりました。これは主に、剰余金の配当により1,099百万円、自己株式の取得により1,000百万円減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により1,936百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は30.8%（前連結会計年度末は36.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2025年11月11日に「2025年9月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想から変更はありません。なお、業績予想は、現在入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	2,939	4,819
受取手形、売掛金及び契約資産	27,396	41,299
棚卸資産	609	966
その他	8,583	6,549
貸倒引当金	△212	△210
流动資産合計	39,316	53,424
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	14,189	13,629
土地	12,506	12,068
その他（純額）	1,392	1,530
有形固定資産合計	28,088	27,228
無形固定資産		
その他	260	242
無形固定資産合計	260	242
投資その他の資産		
その他	6,802	6,869
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	6,801	6,868
固定資産合計	35,150	34,339
資産合計	74,467	87,763

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,030	26,972
短期借入金	8,800	7,000
1年内返済予定の長期借入金	2,332	2,212
未払法人税等	1,299	962
賞与引当金	1,994	1,049
株主優待引当金	41	13
受注損失引当金	346	358
その他	8,212	7,403
流動負債合計	32,056	45,972
固定負債		
長期借入金	12,553	12,000
役員退職慰労引当金	416	427
修繕引当金	272	293
株式報酬引当金	—	20
資産除去債務	1,867	1,871
その他	56	47
固定負債合計	15,166	14,662
負債合計	47,222	60,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	539	539
資本剰余金	11,879	11,879
利益剰余金	17,863	18,701
自己株式	△3,464	△4,463
株主資本合計	26,818	26,656
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	318	355
その他の包括利益累計額合計	318	355
新株予約権	0	0
非支配株主持分	107	117
純資産合計	27,244	27,129
負債純資産合計	74,467	87,763

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年10月1日 至2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年10月1日 至2025年12月31日)
売上高	27,920	48,687
売上原価	23,672	43,531
売上総利益	4,247	5,155
販売費及び一般管理費	2,345	2,842
営業利益	1,902	2,313
営業外収益		
持分法による投資利益	14	16
為替差益	35	44
その他	38	37
営業外収益合計	88	98
営業外費用		
支払利息	34	53
その他	7	8
営業外費用合計	42	61
経常利益	1,949	2,350
特別利益		
固定資産売却益	—	452
新株予約権戻入益	0	—
特別利益合計	0	452
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	1,948	2,801
法人税等	609	855
四半期純利益	1,339	1,946
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,339	1,936

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年10月1日 至2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年10月1日 至2025年12月31日)
四半期純利益	1,339	1,946
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	37
その他の包括利益合計	23	37
四半期包括利益	1,362	1,983
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,362	1,974
非支配株主に係る四半期包括利益	—	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年10月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	クラウド インテグレ ーション	クラウド サービス	ライセンス &プロダク ツ	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,474	5,194	16,248	27,917	2	—	27,920
セグメント間の内部売上高又は振替高	9	—	9	19	—	△19	—
計	6,484	5,194	16,258	27,937	2	△19	27,920
セグメント利益	1,155	826	708	2,690	1	△789	1,902

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△789百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△799百万円、セグメント間取引消去9百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年10月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	クラウド インテグレ ーション	クラウド サービス	ライセンス &プロダク ツ	計			
売上高							
外部顧客への売上高	7,408	5,840	35,434	48,684	2	—	48,687
セグメント間の内部売上高又は振替高	40	—	7	48	—	△48	—
計	7,449	5,840	35,442	48,732	2	△48	48,687
セグメント利益	1,341	1,014	879	3,234	0	△922	2,313

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△922百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△963百万円、セグメント間取引消去41百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	274百万円